3)　ボーリング柱状図及びコア写真

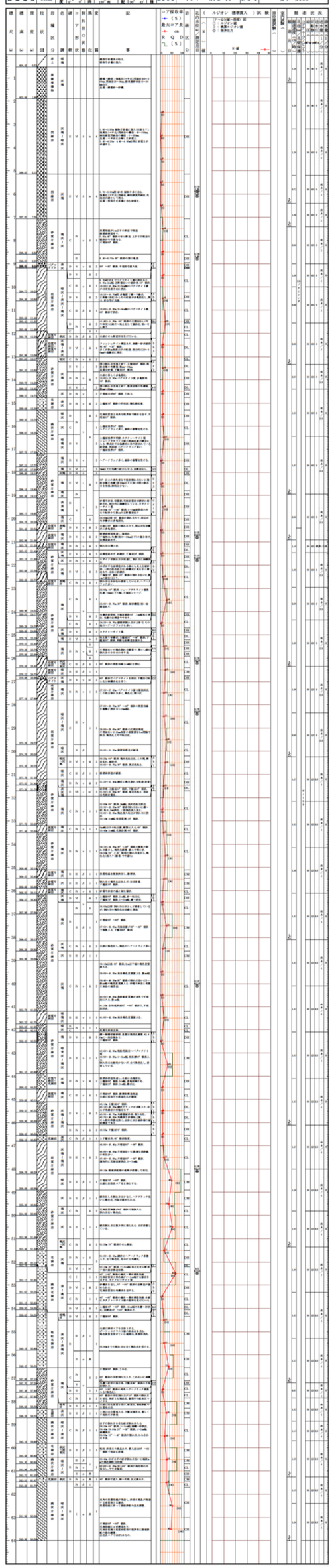
ボーリング柱状図

調　査　名　平成28年度　設楽ダム周辺地質調査業務

事業・工事名

ボーリングNo.

ボーリング名	S5-12	調査位置	愛知県北設楽郡設楽町田口地先 No.155+2.80m CL	北緯	35° 5' 35.757"
発注機関	国土交通省　中部地方整備局　設楽ダム工事事務所	調査期間	平成28年 5月 20日 ～ 29年 3月 24日	東経	137° 33' 39.981"
調査業者名	川崎地質㈱ 名古屋 中部支店 TEL:052-715-4611	主任技師	現地代理人	ボーリング責任者	
孔口標高	404.98m	角度	90° 方位 北 0° 東 90° 南 180° 西 270°	地盤勾配	度 / 割
掘進長	64.00m			座標系	世界測地系 / 日本測地系
試錐機械	種別 D-1				
エンジン	ヤンマー NFD-13	ポンプ	丸中 G203		



SS-12 コア写真


件名 平成28年度 設楽ダム 周辺地質調査業務
孔番 SS-12
深度 0.00 m ～ 64.00 m
社名 川崎地質株式会社 中部支社
5 10 15 20 25 30 35 40 45 50 55 60 65 70 75 80 85 90 95
SS-12
0
1
1
2
2
3
SS-12
3
4
4
5
5
6
SS-12
6
7
7
8
8
9
SS-12
9
10
10
11
11
12
SS-12
12
13
13
14
14
15

SS-12 コア写真


15
16
16
17
17
18
18
19
19
20
20
21
21
22
22
23
23
24
24
25
25
26
26
27
27
28
28
29
29
30
30
31
31
32
32
33
33
34
SS-12

SS-12 コア写真


34
35
35
36
36
37
37
38
38
39
39
40
40
41
41
42
42
43
43
44
44
45
45
46
46
47
47
48
48
49
49
50
50
51
51
52
52
53
SS-12
SS-12
SS-12
SS-12
SS-12

SS-12　コア写真



ボーリング柱状図

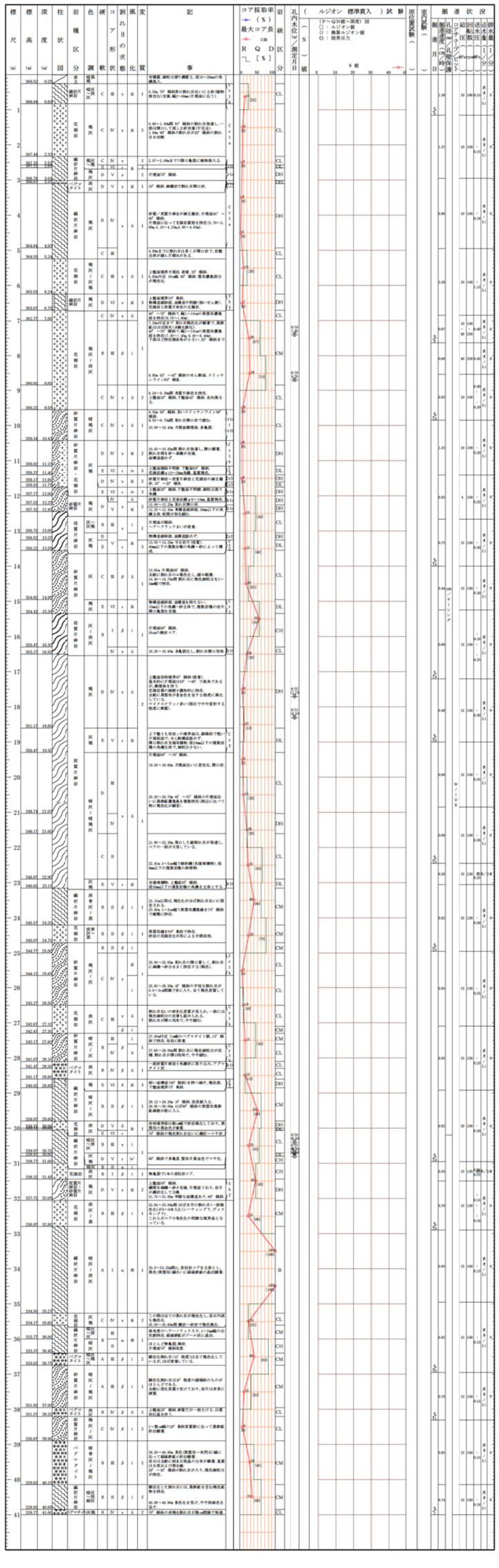
調　査　名　平成28年度　設楽ダム周辺地質調査業務

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	SS-13	調査位置	愛知県北設楽郡設楽町田口地先　No.152+15.00m CL
北　緯	35° 5' 36.832"		
発注機関	国土交通省　中部地方建設局　設楽ダム工事事務所	調査期間	平成 28年 5月 20日 ～ 29年 3月 24日
東　経	137° 33' 37.714"		
調査業者名	川崎地質株式会社　中部支社 電話（052-775-6653）	主任技師	[redacted]
現場代理人	[redacted]	コア鑑定者	[redacted]
ボーリング責任者	[redacted]		
孔口標高	369.77m	角度	上 180° / 下 0° / 90°
方向	北 0° / 西 270° / 90° 東 / 南 180°	地盤勾配	鉛直 水平 90° / 45°
使用機種	試錐機	YBM-YS01	
総掘進長	41.00m	エンジン	ヤンマー　NFD-12
ポンプ	丸中　G203		



SS-13 コア写真

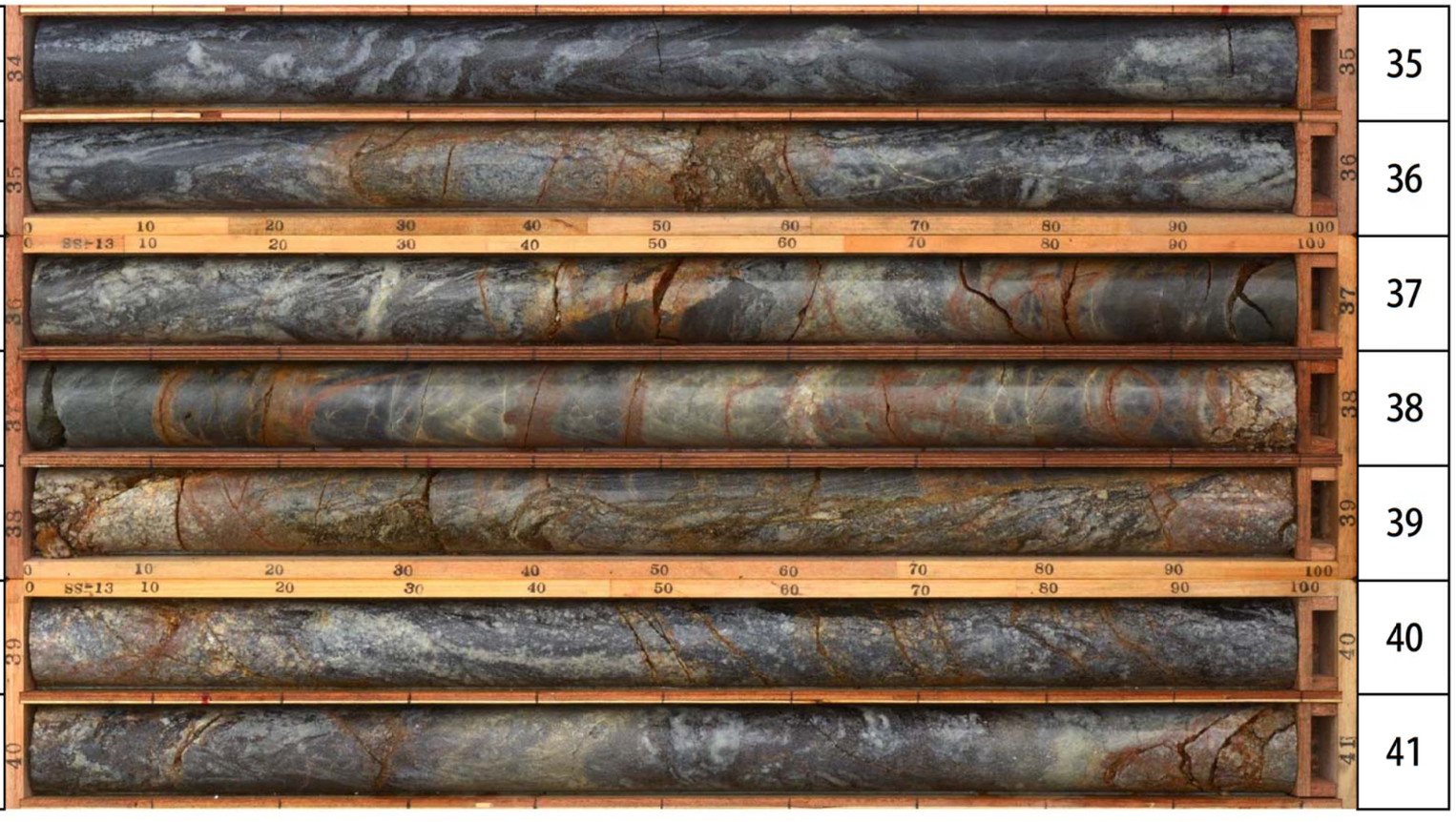


0	1
1	2
2	3
3	4
4	5
5	6
6	7
7	8
8	9
9	10
10	11
11	12
12	13
13	14
14	15

SS-13 コア写真


15
16
16
17
17
18
18
19
19
20
20
21
21
22
22
23
23
24
24
25
25
26
26
27
27
28
28
29
29
30
30
31
31
32
32
33
33
34
SS-13

SS-13 コア写真


34
35
35
36
36
37
37
38
38
39
39
40
40
41
SS-13
0
10
20
30
40
50
60
70
80
90
100

ボーリング柱状図

調　査　名　平成28年度　設楽ダム周辺地質調査業務

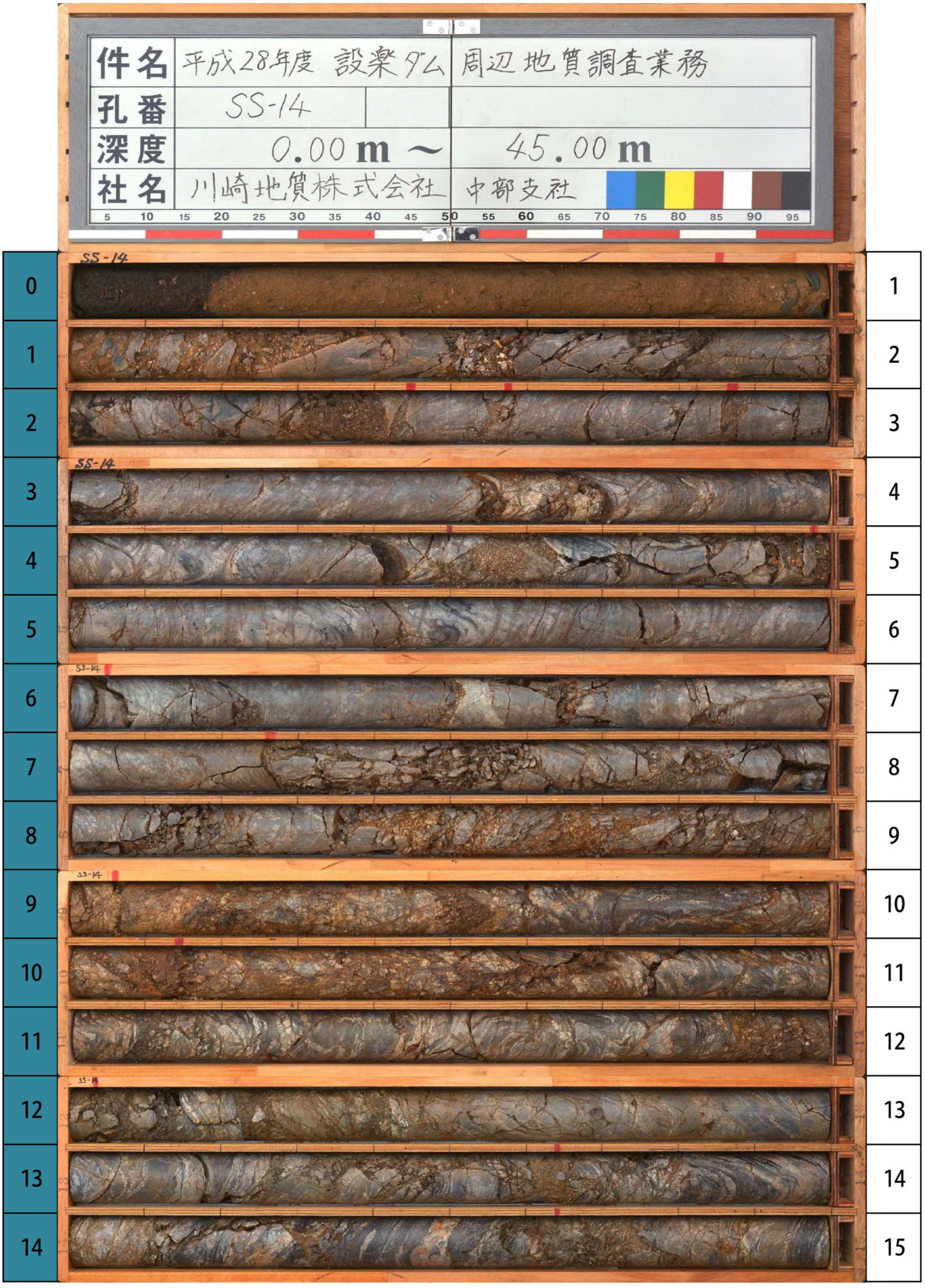
ボーリングNo

事業・工事名

ボーリング名	SS-14	調査位置	愛知県北設楽郡設楽町田口地先 No.154+12.20m R0.65m	北緯	35° 5′ 35.980″
発注機関	国土交通省 中部地方建設局 設楽ダム工事事務所	調査期間	平成 28年 5月 20日 ～ 29年 3月 24日	東経	137° 33′ 38.756″
調査業者名	川崎地質株式会社 中部支社 TEL(052-775-6653)	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]
				試錐機械	東邦 D-1
孔口標高	396.78m	角度	上方 90° 下方 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	0°	使用機種	起振 0° 90° 40°
総掘進長	45.00m					エンジン	ヤンマー NFD-13	ポンプ	丸中 G203

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	孔内水位(m) / 測定日	現位置試験(孔内載荷試験)	掘進状況
1	395.68	0.10		表土							有機質細砂礫				
	395.48	1.30		崩積堆積物	黄褐						5.10～5.55m 砂礫混りシルト質砂で、軟質。 5.55m付近に、凹凸状の角礫を含む。 5.85m以降 礫まで最大礫径 45mm 亜円～亜角状礫 主。				
	395.22	1.56		風化部	褐灰	C	V	v	粘	1	片理面が 傾斜。	CL			
2	394.48	2.30		堆積岩類	褐灰	B	V	v	粘	1	片理面が 傾斜 20°～30° 傾斜の開口割れ 1～5mm開口である。 ～ハーフクラック多い。	CL			
	393.68	3.10			褐	E	Vt	v	粘	1	5.10～5.15m 67° 傾斜の破砕割れ目に入る。粘土鉱物膜が充填し、固結している。	DL			
	393.24	3.54			褐灰	C	V		粘	1	上下盤部が 傾斜 固着礫混り泥岩、ハーフ～クラック多い。	CL			
3	392.98	3.80									片理面が 傾斜 上位の多亀裂開口 走向異なる。				
	392.78	4.00								1	片理面で多亀裂 開口割れ目が入り、近傍すう割れ目も発達して硬い。 割れ目充填物 なし。 4.45m 67° 傾斜の割れ目は、1cm幅で開口。	CL			
	392.78	4.00													
4	391.78	5.00									5.10～6.05m 20°～25° 傾斜の褐色割れ目が、1～数cm間隔である。 割れ面の細粒砂を薄く、挟んでいる。 片理面は、N.W.67° 傾斜で複雑な亀裂を形成。 5.10～5.15m と約0.20° 傾斜程度のハーフ～クラックが多い。 5.35～5.45m 角礫混り、不規則部が入る。 6.10～6.55m ほぼ水平に ハデナイト挟在（2.5cm～5cm幅、赤褐色、熱変質帯）。				
	389.53	7.25										CL			
5	388.43	8.35			灰	C	V		粘	1	片理面が 5°～40° 傾斜。 全般に礫が細砂基質で占め、礫の配列にばらつき。礫径の変化は小さい。 礫質は、堅硬に富んで硬い。若干の砂状物質を挟在するほぼ均質。	Sh			
	388.08	8.70			灰褐	D	Vt		粘	1	全般に細礫が細砂基質で占め、礫の配列にばらつき。礫径の変化は大。構造は比較的緻密。	Sh			
	387.79	8.99			褐灰	C	V		粘	1	全般に礫が細砂基質で占め、礫の配列にばらつき。礫径の変化は大。構造は比較的緻密。	Sh			
	387.28	9.50			褐灰	D	V		粘	2	全般にカクラーサイト質細砂岩 固結礫混り細砂岩が主体。 礫径は小さいが均一。所々礫径が疎粗 ほぼ均質。 9.50m 67° 傾斜、5mm幅、暗褐色粘土を伴う割れ目。	Sh			
6	386.70	10.08			灰	C	V		粘	1	片理面 ほぼ一定しない。 割れ目には細粒分が充し、開口なし。 10.30m 65° 傾斜の走入断面。	CL			
	386.13	10.65			褐灰	D	V		粘	2	全般にカクラーサイト質細砂岩 固結粗粒土 主体。割れ目はクラーサーム 前後の部片主体。 10.65～10.80m 67° 傾斜、非常に細粒。 下盤面 70° 傾斜 非常に細粒。67° 傾斜。	Sh			
7	384.98	11.80			灰	C	E		粘	1	全般に片理面が 数理由構造が顕著。 11.07～11.15m 67° 傾斜の破砕は角片 角礫 細礫混在 粘質。 割れ目は 全般に開口傾向で、10.90m、11.05m付近はモザイク状割れ目で、マックラー 充填。	CL			
	384.98	11.80			褐灰	E	V		粘	2	上盤面が 下盤面が 傾斜、細礫が破砕帯	DH			
	384.68	12.10				D	Vt	v	粘	1	角礫状破砕部 開口最大 7.1、片状部中に含む。	DH			
	384.28	12.50			灰	E	Vt	v	粘	1	11.50～12.20m 上盤面が、下盤 65°67° 傾斜 細礫混り 砂状破砕部 (断層造性？)。	DH			
	383.78	13.00			褐灰	C	V	v	粘	2	カクラーサイト質 粗細砂岩状部 固結度 ほぼ 1	CL			
	383.53	13.25				C	V		粘	1	13.00～13.10m 20°～40° 傾斜の固結砂岩 上盤面 角入り。 13.25m 67° 傾斜、2cm幅で上断面。 全般に 67° 傾斜の中ボル断面 複数入り、周辺の 断ヒクラックと共に岩石片 角礫化している (上盤に カクラーサイト質)。	CL			
	382.98	13.80					V		粘	1		CL			
	382.68	14.10					V		粘	1	片理面が 傾斜、下盤はカクラーサイト質	DH			
	382.48	14.30				D	V		粘	1	モザイク状割れ目が発達し、開口性 一部は固結性粘土鉱物充填。	DH			
	382.23	14.55				D	V		粘	1	片理面が 傾斜	DH			
	382.03	14.75									第三割れ目が発すするゾーン、モザイク状化 を生ずる。				
8	381.53	15.25				C	V	v	粘	2	14.70～15.25m 20° 傾斜の数小サル断面多数は入るカクラーサイト化。	CL			
	381.28	15.50					V		粘	1	15.25m 30° 傾斜、2cmのアーサイト挟在（カクラーサイト化の影響を受ける）。	CL			
	381.03	15.75					V		粘	1	15. 40m付近 割れ目開口状で緩む。 15.50～15.70m 上盤面 67°～下盤 65°67° 傾斜のサル断面多数は入る（カクラーサイト化）。	DH			
	380.63	16.15				D	V		粘	2	15. 80m ほぼ平の割れ目が開口状、下盤粘土内在。 16.30～17.10m ハーフクラック、片理面沿いの 断続破砕部が顕著。	CL			
	379.63	16.90					V		粘	1					
9	379.48	17.30			褐灰	C	V	v	粘	1	17.10～17.30m 67° 傾斜の多亀裂部、暗色片 粘、軟弱、熱水変質による部複部う。	DH			
	379.08	18.10			褐灰	A	B		粘	2	片理面が 67° 傾斜。 角に変化部う粘性割れ目が10cm間隔以下で入り、ほぼ細粒分充填。 上記割れ目以～ハ下盤部ない に貫通破断性。	CL			
	377.53	19.25			灰	C	B		粘	1	片理面が 傾斜。 片理部が粘質細砂状部分的にある。 岩石は全般に角石の集塊での中粒 緻密。 19.30m 67° 傾斜、1～2cm幅のサル断面、ストッケラインにほぼ直交 細礫を伴う。				
	377.08	19.70			褐灰	D	V	v	粘	1	19.25～19.70m 著しく 粗な細片質が発達 断 傾斜 構造と サル断面が発達。 19.70m 20° ～67° 傾斜、1cm幅の黒色粘土挟 在。	DH			
	376.78	20.00				C	V		粘	1	下盤面が粘質細砂状 固結 緻密 ハーフクラック多い。	CL			
	376.23	20.55			褐	B	V		粘	1	片理面が 傾斜 ハーフクラック多い。 不規則な割れ目を伴する が、ほぼ岩盤 は 20.30m 67° 傾斜、1cm幅サル断面、黒褐細 褐色粘土。	CL			
	375.93	20.85		堆積岩類	褐灰	B	B	v	粘	1	断層由構造の破砕				
	375.53	21.25		凝灰岩片岩	褐灰	B	B	v	粘	1	カクラーサイト化粘土に 黒色変～暗緑色変 岩				
	375.33	21.45		緑泥片岩	褐灰	B	B	v	粘	1	21.35m スリッケラインが 傾斜 岩粉粘質 断				
	374.78	22.00		堆積岩類	褐灰	B	V	v	粘	1	全般にハーフクラック（褐色化）が多い。 21.40～21.90m 割れ目 重合し、開口状。	CL			
	374.38	22.40								2	22.10～22.40m 割れ目沿いの断水変質を受け、一部粘土質化 破砕 部 固結 状態を呈う。 断層変質帯を受ける。				
	373.98	22.80		堆積岩類	褐灰	B	B	v	粘	1	片理面が 傾斜。 22.70m 割れ目 重合し、やや軟質化。 開口小。 22.80～23.10m 割れ目、変質破砕部、褐色化。 片理面に沿い 変質 (sm幅を伴う)。	CL			
	373.58	23.20													
	373.38	23.40			褐	B	Vt	v	粘	1	67° ～69° 傾斜、礫混り 粘土質破砕部、断層性状 20%くらい 含む。 角礫状混りに 褐 灰褐色を呈し、構造性。	DL			
	373.23	23.55			褐灰	D	V	v	粘	1	礫混り下盤粘土が、粘土 の 変質 部 が 20°～30° 傾斜の 割れ目 に 沿って 入り込む。	DH			
	372.98	23.80			褐灰	D	V	v	粘	2	花崗 緑の破砕帯が主体、礫が破砕	DH			
	372.58	24.20			褐	E	Vt	v	粘	1	23.40m 67° 傾斜、3cm幅の赤褐粘土挟在。 23.60～23.80m 67° 傾斜の変質粘土挟在。	DL			
	372.22	24.56		緑泥片岩	褐灰	B	B		粘	1	下盤面が 傾斜。	CM			
											25.10～25.20m 67° 傾斜の小 断層の 方位 い 断層にカクラーサイト充填。緩 変質を伴う。 褐褐色に。				
	370.95	25.83			灰	B	V	v	粘	1	25.45m付近 ほぼ水平な割れ目が入り、下盤の割れ目と 数cm幅の褐色化。 25.50～25.80m 高角の片理面ないに 褐色変 変入る。 緩斜を伴う。	CL			
	370.65	26.13									27.10～27.20m 高角な不規則割れ目に沿って褐色化。緩斜破砕部	CM			
	369.36	27.42		砂質片岩											
	369.03	27.75			黒	E	Vt	v	粘	4	上盤面が 傾斜 1～3cm幅 粘土化 脆、上盤 面化。	DH			
	368.88	27.90			褐	D	V		粘	2	破砕の幅が 最も 粗 下も 細 構造を 形成して、 片理、上下盤割れ、カクラーサイト 質で、ハーフクラック多い。	DH			
							V	v		3	下盤67° 傾斜 1～3cm、粘土質 1～3cm 緩斜破砕帯				
	367.43	29.35			灰	B	B		粘	1	片理面が 傾斜 上位の多亀裂開口 走向異なる。 27.50～28.10m 中～粗化 変質し、粘化 も 伴う。	CL			
					褐	E	Vt	v	粘	4	67° 傾斜、せん断 面、スリッケラインが 下盤 0～5cm 粘化 粘土 伴う。	DH			
	367.23	29.55		緑泥片岩		D	V	v	粘	2	第三 破砕が 下盤面 に 最大 粘土 を 伴う。 岩粒 破砕が 傾斜、上下のせん断面に 沿 開口。	DH			
	366.98	29.80			褐灰	B	B	v	粘	1	29.50～29.75 67° 傾斜の 平 な 断面 第三 開口 (マッドケース)。	DH			
											30° 傾斜 以下の 割れ 目 入る が、とうれも 開口 状。 29.95m 1cm幅の 黒色 脈 30° 傾斜で 挟在。 30.40～31.15m 白色 長 鉱 の 数cm 間隔で 入 る が、 式 化 は 進 ず。 31.30～31.70m 高角の 褐色 割れ 目 複数 入 る が、 堅 牢。	CL			
	365.68	31.10													
	365.53	31.25			白	B	B	v	粘	1	30° ～40° 傾斜、母岩との 境界 密 着。	DH			
	365.28	31.50		ペアサイト	灰	D	V	v	粘	2	31.50m 67° 傾斜、数cm幅、褐色 変質	CL			
	365.03	31.75								1					
	364.78	32.00		ペアサイト	白	B	B	v	粘	1	不規則な高角ブーム状。	DH			
											31.90m 67° 傾斜、1cm幅、ペアサイト 脈 状 脈。 32.20m 30° 傾斜、黄褐色 変質 割れ目、上盤1cm幅 褐色 変質。 32.40m 30° ～60° 傾斜の 褐色 割れ 目 あ、褐色 細粒 分 を 充填、 密 着。	CL			
	363.78	33.00		砂質片岩	褐灰	C	岩		粘	2	高角の 褐色 割れ 目 が 複数 入る。 周辺 母岩 も 褐色 汚染、 細粒 分 が 充填 し、ほぼ 固着 。 32.70～33.10m 母 色 変 帯の 最 分 厚 点 が 見 られ に 褐 色 されている。 周 辺 岩 色 化 する (開 緑 岩 の 影 響 ?)。	CL			
	362.98	33.80													
	362.55	34.23			灰	B	B		粘	1	褐色 化 した 割れ 目 が 数 ヵ 所 入る が、2次 鉱 物 に 充 填 され、ほぼ 密 着。	CL			
	361.73	35.05		緑泥片岩	灰	B	B	v	粘	1	著 入 面が 傾斜、母岩との 境界 密 着。 34.45m2.0m 手 状 変質帯の 薄 片 多 て な る。 下位の 母 質 片 岩 との 境界 は、1～3cm幅 で 褐 色化。	CL			
	361.53	35.25			褐	D	V	v	粘	1	上盤 面が 傾斜、角礫 質破砕部、細粒分 ～30%含 む 小 さ な 割 れ 目。	DH			
	361.23	35.55				C	V		粘	3	カクラーサイト 質 細粒砂岩、35°～40° 傾斜の 割 れ 目 が 発達 。	DH			
	360.63	36.15			灰	D	V	v	粘	2	上盤 面が 傾斜、 カクラーサイト 質 細粒砂岩、35°～40° 傾斜 の 割 れ 目 が 発達 。	DH			
	360.43	36.35				E	V		粘	3	上盤 境界 面が 傾斜、破断 部 周 辺 に 細粒 化 と 色 の 褐 緑 岩 が 認 め ず。	DH			
	359.58	37.20		堆積岩類	褐灰	B	B	v	粘	1	36.40m2.0m 以 下 傾斜の 破砕 変質 帯 を 伴 い、これ は 上 の カクラーサイト 構 造 に 伴 われている。 片 理 面 は ほぼ 一 定 傾 斜 す る。 36.40m 67° 傾斜 1cm幅 の 粘 土 脈 挟 在。				
	359.36	37.42		中粒花崗岩	褐灰	C	V		粘	3	36° 傾斜、1～3cm幅 の 褐 色 粘 土 脈 入 り、周 辺 岩 盤 が 角 礫 状 に 多 亀 裂 化。	DH			
	358.98	37.80			褐灰	B	V	v	粘	1	片 理 沿 い に 平 行 で、粘 質 の 部 分 的 に 著 しく 変 化 する。 長 角 の 網 状 ハーフクラック 発 達 し、変 位 有 り 礫 構 岩 に 近 似 する 部 分、 緩 斜 化。	CL			
	358.48	38.30			褐	D	V	v	粘	3	全 般 に 褐 色 化 し、褐 色 の ハーフクラック 多 発。 粘 状 で 切 まり、粘 質 に 硬 質 で、礫 岩 質。 下 位 の 花 崗 岩 の 風 化 部 が、粘 岩 で 複 雑。	DH			
	357.98	38.80				C	V	v	粘	3	礫 状 破 砕 部 が 発 達 する。	DH			
	357.68	39.10		花崗岩類	褐灰	C	V	v	粘	3	礫 状 破 砕 部、下 盤 80°67° 傾斜。	DH			
	357.42	39.36		中粒花崗岩	褐	B	V	v	粘	1	2	緩斜 変質 を 受ける。 最 下 盤 の 割 れ 目 に 褐 色 汚 入 粘 土 状 。	CL			
	357.23	39.55		風化部	灰	C	V	v	粘	1	1	礫 状 ～ 細 礫 状 破 砕 部、細 粒 分 含 ます。	CL			
	356.93	39.85		緑泥片岩	褐灰	B	V	v	粘	1	2		DH			
	356.63	40.15		堆積岩類	褐	D	V	v	粘	3	3	全 般 に 褐 色 粘 土、花 崗 岩 の 汚 入 を 受 け ている。 凹 凸 岩 盤 の 境 界 は 不 規 則 な 汚 入 状 。 本 体 の 岩 盤 は 新 鮮 な 岩 盤 (黒 雲 母 鉱 物 変 化 を 受 け 褐 色 粘 質 細 粒 で、変 質、ラ ク 状 に 新 鮮 な 岩 盤 に 移 行 する。	CL			
	356.43	40.35		中粒花崗岩	褐灰	C	V		粘	2					
											39.95～40.10m ほぼ 水 平 な 褐 色 割 れ 目 と 高 角 で 複 数 の 割 れ 目 沿 い に 褐 色 変 質 を 受 け て、粘 質 化 の 位 置、 緩 褐 色 化 お よ び 黒 雲 母 が 消 失 しかかっている。 40.30～41.45m 67° ～69° 傾斜の 褐 色 割 れ 目 が 複 雑 し、粗 化 が 十 分 に 進 んでいない。	CL			
	355.28	41.50			褐灰	B	V	v	粘	1	3	41.50～41.58m 凝 灰 質 変 質 岩 脈 挟 在。	DH			
	354.63	42.15		花崗岩類	褐灰	C	V	v	粘	2	2	41.90m 67° 傾斜、1～2cm幅 の 赤 褐 色 変 質 脈、入 る。全 般 に 褐 色 内 部 が 細 粒 で、ハーフクラック 多い。	CL			
	354.23	42.55		中粒花崗岩	褐灰	B	岩		粘	1	1	42.05～42.10m ほぼ 水 平 に 5cm幅 の ハデナイト 挟 入。 42.30m付近 ア 際 面が 傾斜。	CL			
	353.78	43.00													
	353.63	43.15		緑泥片岩	褐灰	D	V		粘	3	2	43.00m 67° 傾斜、黒色 緩斜 1 ヶ ル 岩 泥、いろ ゆ。	DH			
	353.33	43.45			褐灰	C	V	v	粘	1		43.00～43.15m 下 盤 面が 67° 傾斜、褐 色 変 質 部、非 亀 裂 化。	CL			
	353.03	43.75		堆積岩類	褐灰	B	岩		粘	1	1	43.40～44.20m 1cm幅 の ハデナイト ほぼ 水 平 に 入 る。 位 置 は 特 に 色 内 変 質 緩 斜 を 伴 う。 ヶ 立 脈 状 に 入 る。 43.70m付近 ア 際 面が 傾斜、中 位 部 ない に 緩斜 破 岩 が 点 在 。	CL			
	352.53	44.25													
	352.38	44.40		緑泥片岩	褐灰	D	V		粘	3	3	70° および 75° 傾斜 の 褐 色 変 質 破 、緩斜 が 多 亀 裂 帯、 最 厚 は 中 粒 も 緩 斜 ヶ 立 脈。	DH			
	351.88	44.90		堆積岩類	褐灰	C	V		粘	2	1	片 理 沿 い に 褐 色 緩 斜 ヶ 立 脈。	CL			
	351.78	45.00		緑泥片岩	褐灰	C	V	v	粘	1	3	下 盤 面が 67° 傾斜、1cm幅 の 脈 状 ヶ 入 脈 (緑 ヶ)。	DH			
												褐 色 ～ ハーフクラック 緩 斜 入 る。				

SS-14 コア写真


件名 平成28年度 設楽ダム 周辺地質調査業務
孔番 SS-14
深度 0.00 m ～ 45.00 m
社名 川崎地質株式会社 中部支社
SS-14
0
1
1
2
2
3
SS-14
3
4
4
5
5
6
SS-14
6
7
7
8
8
9
SS-14
9
10
10
11
11
12
12
13
13
14
14
15

SS-14 コア写真


15
16
16
17
17
18
18
19
19
20
20
21
21
22
22
23
23
24
24
25
25
26
26
27
27
28
28
29
29
30
30
31
31
32
32
33
33
34

SS-14 コア写真



ボーリング柱状図

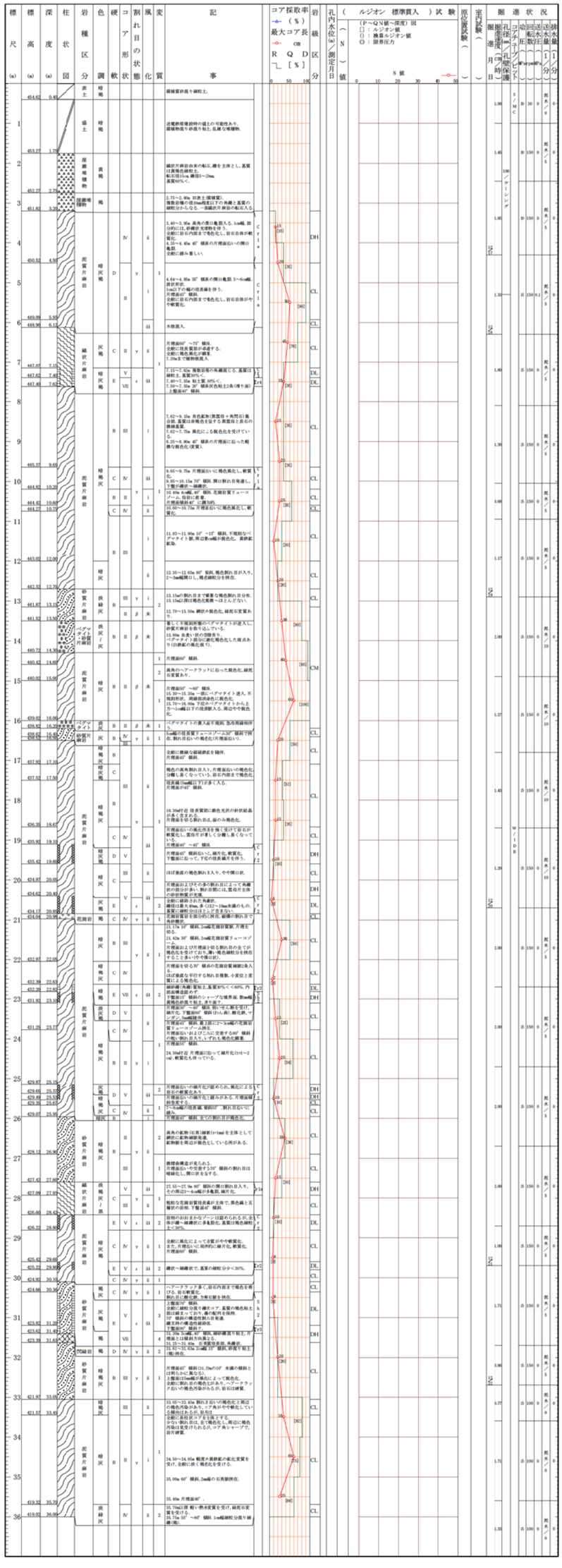
調　査　名　平成28年度　設楽ダム周辺地質調査業務

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	SS-15	調査位置	愛知県北設楽郡設楽町田口地先　No.159+5.00m CL	北緯	35° 5′ 33.909″
発注機関	国土交通省　中部地方建設局　設楽ダム工事事務所	調査期間	平成28年 5月 20日 ～ 29年 3月 24日	東経	137° 33′ 41.416″
調査業者名	川崎地質株式会社　中部支社 電話（052-775-6653）	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]
				コア鑑定者	[redacted]
				ボーリング責任者	[redacted]
孔口標高	455.02m	角度	上 180° / 下 0°、90°	方向	北 0°、東 90°、南 180°、西 270°
総掘進長	36.00m	地盤勾配	鉛直 90°、水平 0°、40°	使用機種	
試錐機	YBM/YSO-1				
エンジン	ヤンマー　NFD8 ヤンマー　NFD12-EK	ポンプ	鉱研　MG-5A		



SS-15 コア写真


件名 平成28年度 設楽ダム 周辺地質調査業務
孔番 SS-15
深度 0.00 m ～ 36.00 m
社名 川崎地質株式会社 中部支社
5 10 15 20 25 30 35 40 45 50 55 60 65 70 75 80 85 90 95
SS-15
SS15
SS-15
SS-15
SS-15
SS-15
0 1
1 2
2 3
3 4
4 5
5 6
6 7
7 8
8 9
9 10
10 11
11 12
12 13
13 14
14 15

SS-15 コア写真


15
16
16
17
17
18
18
19
19
20
20
21
21
22
22
23
23
24
24
25
25
26
26
27
27
28
28
29
29
30
30
31
31
32
32
33
33
34

SS-15 コア写真



ボーリング柱状図

調　査　名　平成28年度　設楽ダム周辺地質調査業務

ボーリングNo.

基準・工事名

ボーリング名	J1-11	調査位置	愛知県北設楽郡設楽町田口地先　設楽ダム周辺	北緯	35° 5' 27.65"
発注機関	国土交通省　中部地方整備局　設楽ダム工事事務所	調査期間	平成28年5月20日 ～ 29年3月24日	東経	137° 33' 33.18"
調査業者名	川崎地質株式会社　中部支社 電話 052-731-2613	主任技師	[redacted]	孔口標高	368.74m 69.00m
掘進長	90° 鉛直 / 0° 水平 / 方向	地盤勾配	0.00°	孔内水位	[redacted]
削孔径	86mm～66mm～56mm～46mm～36mm	使用機械	試錐機	YBM-YS01	
		エンジン	ヤンマー　NPD-12	ポンプ	丸中　G203

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 (cm) / RQD (%)	岩級区分	孔内水位 (m)	ルジオン値 (Lu)	標準貫入試験 N値	現地透水試験	試験区間	地下水位	孔内載荷試験	試験区間	変形係数 (MN/m²)	降伏圧力 (MN/m²)	破壊圧力 (MN/m²)	最大圧力 (MN/m²)

J1-11 コア写真



0	1
1	2
2	3
3	4
4	5
5	6
6	7
7	8
8	9
9	10
10	11
11	12
12	13
13	14
14	15

J1-11 コア写真


J1-11
15 16
16 17
17 18
18 19
19 20
20 21
21 22
22 23
23 24
24 25
25 26
26 27
27 28
28 29
29 30
30 31
31 32
32 33
33 34

J1-11 コア写真


34
35
35
36
36
37
37
38
38
39
39
40
40
41
41
42
42
43
43
44
44
45
45
46
46
47
47
48
48
49
49
50
50
51
51
52
52
53
J1-11
0
10
20
30
40
50
60
70
80
90
100

J1-11 コア写真


53
54
54
55
55
56
56
57
57
58
58
59
59
60
60
61
61
62
62
63
63
64
64
65
65
66
66
67
67
68
J1-11

ボーリング柱状図

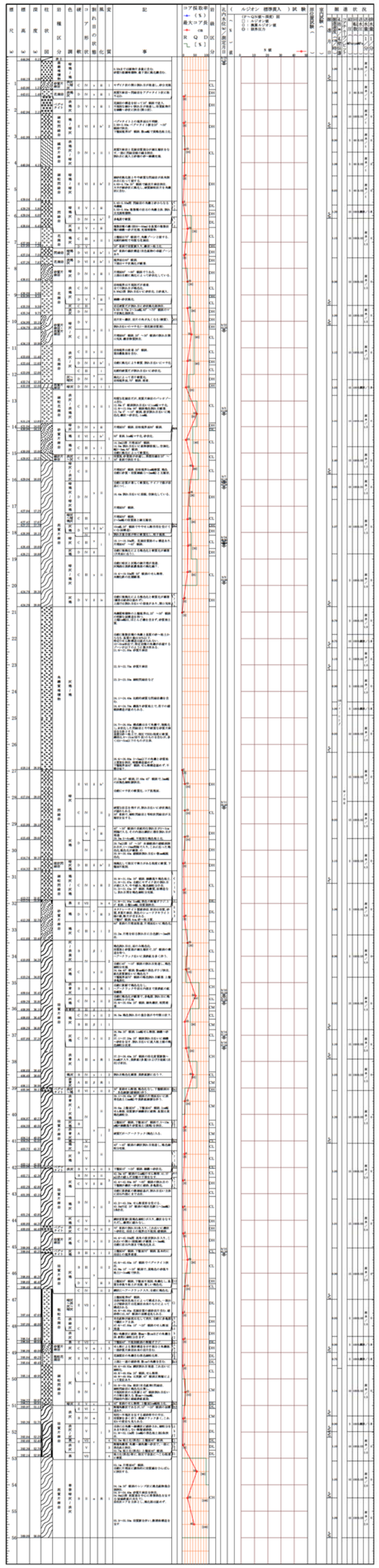
調査名　平成28年度　設楽ダム周辺地質調査業務

ボーリングNo

事業・工事名

ボーリング名	J2-1	調査位置	愛知県北設楽郡設楽町田口地先　設楽ダム周辺
発注機関	国土交通省　中部地方整備局　設楽ダム工事事務所	調査期間	平成28年5月20日 ～ 29年3月24日
調査業者名	川崎地質株式会社　中部支社 電話(052-775-6653)	主任技師	[redacted]
孔口標高	445.00m	現場代理人	[redacted]
掘進長	56.00m	試錐機械	コア採取 [redacted]
角度	鉛直 90°　上向き 0°　下向き -90°	方向	北 0°　西 270°　南 180°　東 90°
地盤勾配	北 0°　東 90°	使用削孔径	孔口 φ86mm　孔底 φ66mm
エンジン	ヤンマー　NFD-10	ポンプ	MS315EA

北緯 35° 1' 38.908"
東経 137° 13' 43.266"
ボーリング責任者 [redacted]



J2-1　コア写真

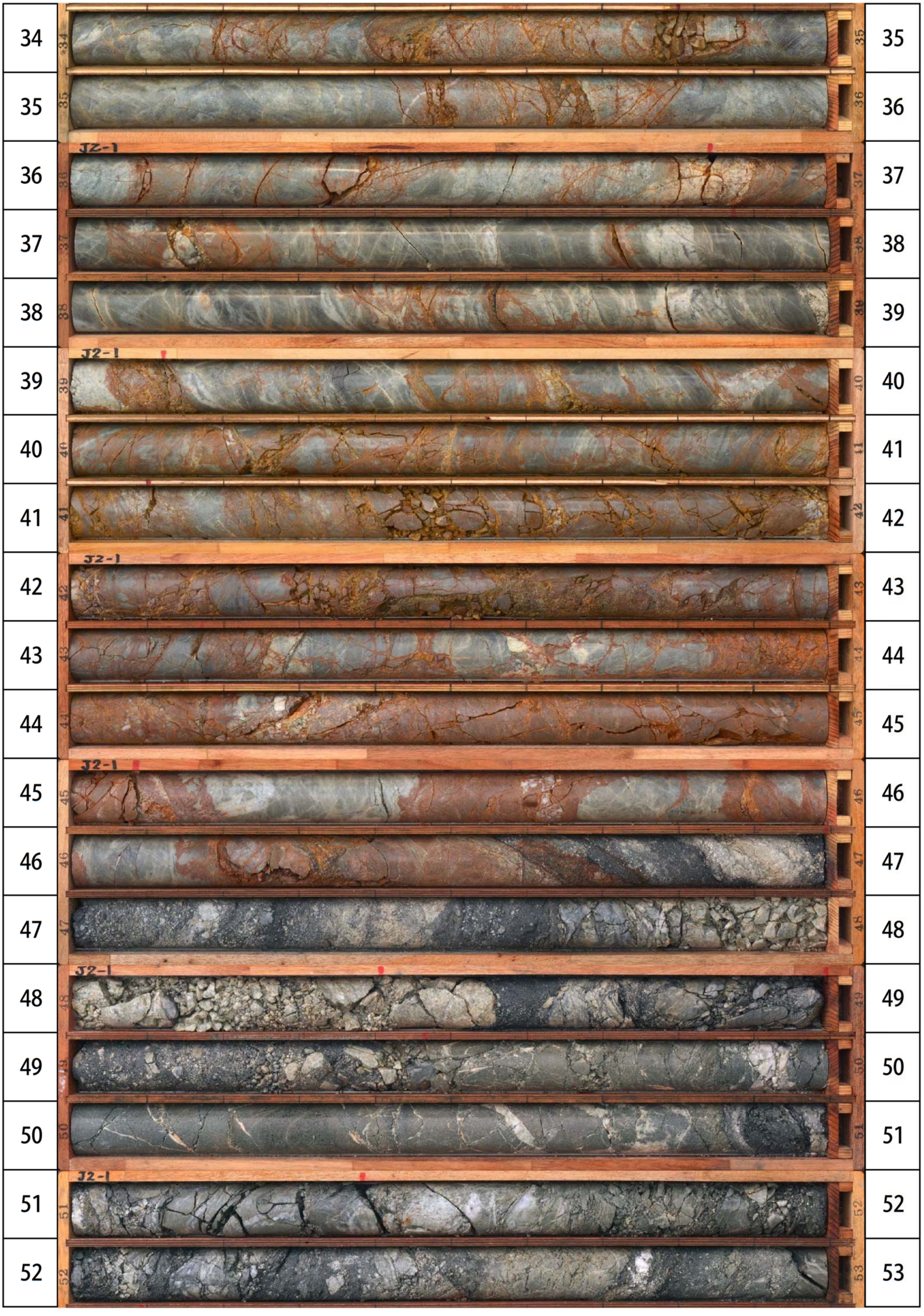


0	1
1	2
2	3
3	4
4	5
5	6
6	7
7	8
8	9
9	10
10	11
11	12
12	13
13	14
14	15

J2-1　コア写真



J2-1　コア写真


34
35
35
36
36
37
37
38
38
39
39
40
40
41
41
42
42
43
43
44
44
45
45
46
46
47
47
48
48
49
49
50
50
51
51
52
52
53
J2-1

J2-1　コア写真



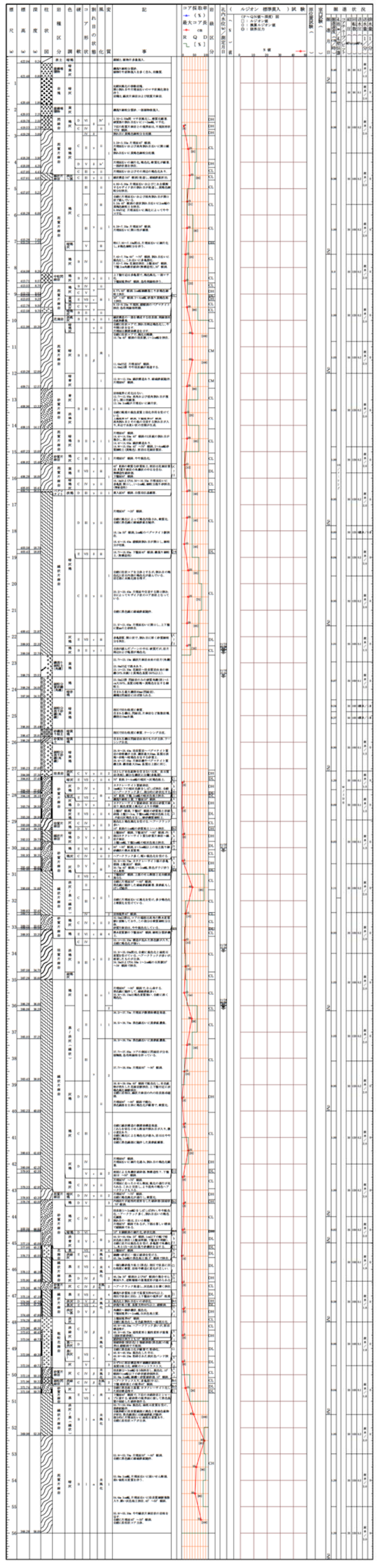
ボーリング柱状図

調査名　平成28年度　設楽ダム周辺地質調査業務

事業・工事名

ボーリングNo

ボーリング名	J2-2	調査位置	愛知県北設楽郡設楽町田口地先　設楽ダム周辺		北緯	35° 1' 39.243"	
発注機関	国土交通省　中部地方整備局　設楽ダム工事事務所	調査期間	平成28年5月20日 ～ 29年3月24日		東経	137° 13' 41.576"	
調査業者名	川崎地質株式会社　中部支社 電話 052-775-6653	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]	コア鑑定者	[redacted]	ボーリング責任者	[redacted]
孔口標高	422.20m	角度	90° 2.5 0° 6°	方向	北 0° 270° 90° 180° 南	地盤勾配	0° 270° 90° 180° 0°	使用機種	試錐機	東邦 DC-1
掘進長	56.00m					エンジン	ヤンマー　NFDA12	ポンプ		丸山　M5410



J2-2 コア写真


件名 平成28年度 設楽ダム 周辺地質調査業務
孔番 J2-2
深度 0.00 m ～ 56.00 m
社名 川崎地質株式会社 中部支社
5 10 15 20 25 30 35 40 45 50 55 60 65 70 75 80 85 90 95
J2-2
0
1
1
2
2
3
3
4
4
5
5
6
6
7
7
8
8
9
9
10
10
11
11
12
12
13
13
14
14
15

J2-2 コア写真


15
16
16
17
17
18
18
19
19
20
20
21
21
22
22
23
23
24
24
25
25
26
26
27
27
28
28
29
29
30
30
31
31
32
32
33
33
34

J2-2 コア写真


34
35
35
36
36
37
37
38
38
39
39
40
40
41
41
42
42
43
43
44
44
45
45
46
46
47
47
48
48
49
49
50
50
51
51
52
52
53
J2-6
J2-2
J2-2
J2-2
J2-2
J2-2
J2-2

J2-2 コア写真



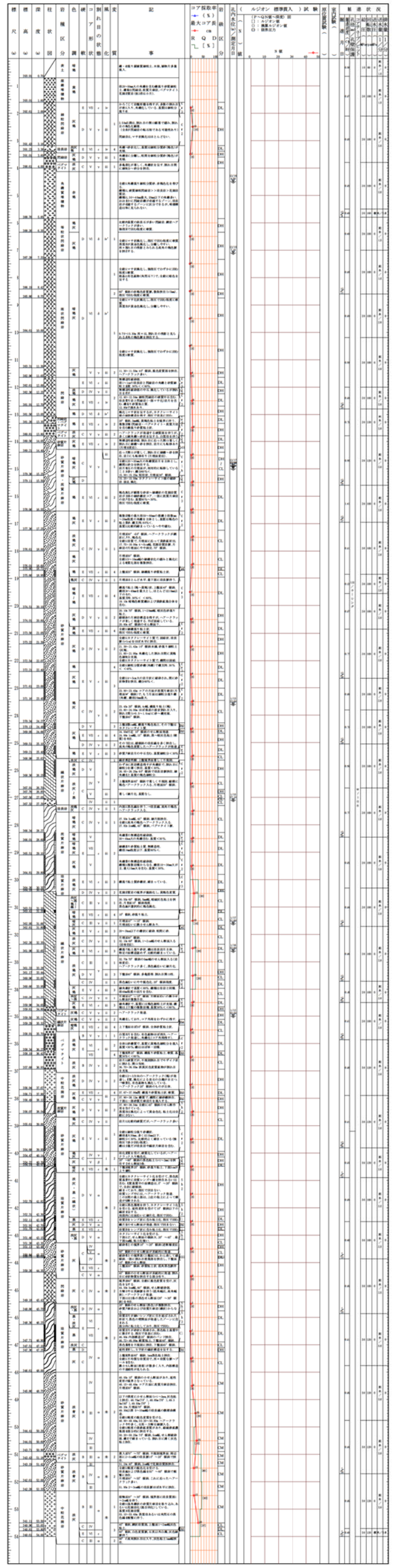
ボーリング柱状図

調　査　名　平成28年度　設楽ダム周辺地質調査業務

事業・工事名

ボーリングNo.

ボーリング名	J2-4	調査位置	愛知県北設楽郡設楽町田口地先　設楽ダム周辺
発注機関	国土交通省　中部地方整備局　設楽ダム工事事務所	調査期間	平成28年5月20日 ～ 29年3月24日
調査業者名	河崎地質株式会社　中部支社 電話 052-775-6453	主任技師	
孔口標高	394.61m	北緯	35° 5′ 39.381″
総掘進長	54.00m	東経	137° 33′ 39.617″
角度	90°（鉛直）	方向	北 270° 西 180° 東 90° 南 0°
地盤勾配	前進 0°	反対 0°	
使用機種	試錐機	東邦 D-1	
	エンジン	ヤンマー　NFD-13	ポンプ　丸中　G203
ボーリング責任者			
調査員			
記録者			


標尺
標高
深度
柱状図
岩種区分
色調
硬軟
コア形状
割れ目の状態
風化変質
記事
コア採取率
最大コア長
RQD
岩級区分
孔内水位
N値
（ルジオン 標準貫入）試験
（P～Q-N値～限界）留
□：ルジオン値
○：標準ホロオン値
◇：限界圧力
N値
現位置試験（ ）
（ ）
基礎状況
孔口標高
掘進長
総掘進長
孔内水位
湧水量
ルジオン値
1回目
2回目
3回目
1回目
2回目
3回目
1回目
2回目
3回目

J2-4 コア写真


件名 平成28年度 設楽ダム 周辺地質調査業務
孔番 J2-4
深度 0.00 m ～ 54.00 m
社名 川崎地質株式会社 中部支社
5 10 15 20 25 30 35 40 45 50 55 60 65 70 75 80 85 90 95
J2-4
0
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

J2-4 コア写真


J2-4
15
16
16
17
17
18
18
19
19
20
20
21
21
22
22
23
23
24
24
25
25
26
26
27
27
28
28
29
29
30
30
31
31
32
32
33
33
34

J2-4 コア写真


34
35
35
36
36
37
37
38
38
39
39
40
40
41
41
42
42
43
43
44
44
45
45
46
46
47
47
48
48
49
49
50
50
51
51
52
52
53
J2-4

J2-4　コア写真



ボーリング柱状図

調　査　名　平成28年度　設楽ダム周辺地質調査業務

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	J2-5	調査位置	愛知県北設楽郡設楽町田口地先　設楽ダム周辺	北緯	35° 5′ 40.340″
発注機関	国土交通省　中部地方建設局　設楽ダム工事事務所	調査期間	平成 28年 5月 20日 ～ 29年 3月 24日	東経	137° 33′ 37.781″
調査業者名	川崎地質株式会社　中部支社　電話（052-775-6653）	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]
				コア鑑定者	[redacted]
				ボーリング責任者	[redacted]
孔口標高	354.13m	角度	180°上 90° 0°下 0°	方向	北 0° 270°西 90°東 180°南
総掘進長	27.00m	地盤勾配	鉛直 90°　水平0° 42°	使用機種	試錐機：東邦 D-1
				エンジン	ヤンマー NFD-10　ポンプ：丸中 G203

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
	353.58	0.55		崖錐堆積物	暗褐灰						0.00～0.28m 新期崖錐堆積物. 植物片混り. 0.28～0.38m 有機質粘土. 0.38～0.55m 古期崖錐堆積物.
	353.26	0.87		岩屑堆積物	淡灰/黒（褐）						片理面50° 傾斜. 珪質部と黒雲母縞の細互層化. 0.55～0.70m ほぼ水平のかみ合わせ不良, 割れ目2本あり.
1	352.60	1.53									
											高角度傾斜のヘアークラック発達し, 褐色化 黄鉄鉱変染？
2	351.98	2.15									
					灰褐/淡褐灰						角(径長15cm～数cm)を主体とし, 褐色化した 緑礫～砂分引礫間を充填. 粘質は不足し, ゆ る詰めの状態. 角礫は母岩材料のみで, 他種礫含まず. 岩屑と基質を埋める砂質土からなる. 3.55m以浅 転石を含む岩屑堆積物の可能性 大.
3	350.58	3.55									
	350.13	4.00		岩屑堆積物/崖錐堆積物	淡褐灰						複数種の角礫(径5～40m)と基質を充填する 細粒分質砂質土からなる. 木根混入.
4	349.45	4.68		泥質片麻岩	暗褐灰	D	IV	γ	ii	1	片理面10° ～20° 傾斜. 片理面沿いに多亀裂化した部分多く, 一部に は黄褐色土を挟在(4.00m).
5	349.18	4.95			灰褐	E	V	ε	iii	2	相対的微小変位を伴う岩片～礫状. 岩構造を 残す. 上部に黄鉄鉱濃集した小片を多く伴う.
	348.92	5.21			暗褐灰	C	IV	γ	ii	1	片理面5° ～10° 傾斜. 5.40～5.65m 不規則形状の珪質部を含み, 境 界部に黄鉄鉱濃集して分布.
6	348.03	6.10			灰褐	E	V	ε	iii		細礫混り砂質土挟在. 10° 傾斜. 6.05m 10° 傾斜2～3cm幅, 緑礫混り細粒土 挟在.
	347.38	6.75		ペグマタイト	淡褐灰	B	IV	γ	ii	2	片理面と非調和的に40° 傾斜に貫入. 40° ～45° 傾斜の割れ目やその他の割れ目 は入り, これに沿って鉱物が分離しやすく, 細礫～砂状化. 硅化鉱物と白雲母を伴う.
7	346.93	7.20		泥質片麻岩	暗褐灰	D	V	δ	iv	2	片理面60° ～65° 傾斜. これに沿って2cm幅の花崗岩質部挟在. マサ 状風化部伴う.
	346.63	7.50			灰褐	E	IV/V	ε	iii	4	緑外縁混り細粒分質ﾏﾄﾘｯｸｽ砂. 7.35mまでは泥質片麻岩由来, 以深は花崗岩 質脈由来.
8	345.98	8.15			暗褐灰	D	IV	γ		1	片理面60° ～65° 傾斜. 岩石内部まで褐色化が および軟質化. 7.85～7.96m 50° 傾斜で花崗岩質部挟在(調 和的).
	345.18	8.95		縞状片麻岩	暗青灰	B	II	β	i	1	片理面60° ～85° 傾斜. 暗灰色部と淡灰珪質 部が縞状構造をなす. 暗灰色部に沿って磁硫鉄鉱多くなる. 岩石硬質で, ほぼ割れ目のみ褐色化.
9	344.58	9.55		泥質片麻岩	灰褐	E	V	ε	iii	3	60° 傾斜, 砂質破砕部. ほぼ泥質片麻岩礫を主体とし, 少量の珪質細 礫を含む. 礫支持.
	344.18	9.95			暗褐灰	D		γ			上盤面45° 傾斜, 全般にカタクレーサイト質 岩片相互関は, こう結している.
10	344.08	10.05		砂質片麻岩	黒	E	VII	ε	iii	4	上盤40° 傾斜, 黒色粘土基質支持, 砂含む.
	343.58	10.55			黒/暗褐						10° 傾斜以下の弱い面構造発達. 破砕岩片が 粒径が1mm以下の粒子で配列.
	343.33	10.80			褐	E	V	δ		2	上盤面10° 傾斜, 全般にカタクレーサイト質
11	342.83	11.30		花崗岩	褐	E	VII	ε	iii	3	礫混り砂質粘土質の破砕帯. 礫はほとんど10mm以下, 基質支持.
12	342.13	12.00		珪質片麻岩	灰	E	VI	ε	i	2	褐色風化帯との境界面70° 傾斜. 褐色風化なく原岩色を呈す(還元帯). 全般に30° ～40° 傾斜の弱い面構造あり.
	341.58	12.55					VII				岩盤形態全く残さず, 粉砕. 特定の面構造なし. 細角礫混り砂質粘土. 部分的に容易に指圧で 潰れ.
	341.40	12.73			淡灰	D	IV	α			せん断を受け多亀裂化. 10° 傾斜以下のせん 断面.
13	341.13	13.00			黒	E	VII	ε		4	原岩が完全に粉砕され, 細礫混り砂質粘土状.
	340.83	13.30			淡灰	D	V	α		2	せん断受け多亀裂化. 10° 傾斜以下のせん断 面多数あり. これ沿いに砂状化.
	340.53	13.60			黒		VII		i	4	原岩が完全に粉砕され, 砂質粘土状. 特定の面構造なし.
14	340.13	14.00			淡灰	E	V	ε		3	細礫～砂状に破砕. 粘土分基質充填. 淡灰色～一部黒色を呈する. 4cm以下の礫含 む.
	339.48	14.65			黒～淡灰		VII			4	原岩が完全に粉砕され, 細礫混り砂質粘土状. 10° 傾斜以下の弱い面構造あり. 14.05m 3cm幅で珪質の粉砕部挟在.
	339.21	14.92									細礫～砂混り黒色粘土. 指圧で容易に変形する程度に軟質.
15	339.13	15.00				D	V	α			やや岩片状.
	338.66	15.47				E	VII	ε			岩片が粘土～細礫状に粉砕される. 特定の面 構造を持たない.
	338.49	15.64			淡灰		V			2	礫～砂状で, やや岩盤構造残す. 脱色化.
16	337.98	16.15			黒/淡灰		VII			4	岩片が粘土～細礫状に粉砕される. 特定の面構造を持たない.
	337.78	16.35			緑灰		V			3	細塊状に破砕され, 岩盤構造を残さず.
	337.58	16.55			淡緑灰	E	VII	ε		4	全般に細礫混り粘土. 基質支持. 指圧で固り程度の固さ. 16.60m 10° 傾斜の弱い面構造が見られる.
17	337.08	17.05			黒						砂混り粘土. 指圧でへこむ.
	336.72	17.41			暗灰		VI				全般に粘土混り砂礫状. 礫支持. 下盤面30° 傾斜の面構造あり.
	336.33	17.80		閃緑岩	淡緑灰	C	V	α		2	多亀裂化しているが, 割れ目はかみ合う. 網状の方解石脈入るが, これも後次の変形を 受けて転移.
18	335.26	18.87			黒～淡灰		VII		i		粉砕されて全般に砂混り粘土. 基質支持. 特定の面構造は見られない. 18.35～18.60m 破砕質中石で, 角～亜角礫状.
19	334.48	19.65			淡灰	E	VI	ε		4	角礫～砂状の破砕帯. 基質は淡緑灰色粘土. 含まれる多亀裂化した中石は, 脱色化を受け る.
	334.23	19.90			黒		VII				掘削時, 孔壁のせり出しあり. 細礫混じり粘 土.
20	333.68	20.45			淡灰		VI				角礫～砂状の破砕帯. 基質は淡緑灰色粘土. 一部黒色粘土挟在. 含まれている角礫は, 脱色化を受けている. 下盤面20° ～30° 傾斜.
	333.43	20.70					III		i		せん断変形を受けた微細構造を伴う. カタク レーサイト.
21	332.18	21.95		細粒閃緑岩	淡緑灰/緑灰	B	II	α	来	1	全般に柱状コアを主体とし, 風化緑なし. 21.00～21.80m 微細な緑泥石および方解石 に伴うヘアークラックが発達. 劣化なし.
22	331.53	22.60		斑状閃緑岩	暗灰	B	II	α	来	1	22.25～22.60m 85° 傾斜. 2mm幅の方解石脈 入る. これが細粒閃緑岩と斑状閃緑岩の境界となっている.
	331.38	22.75		ペグマタイト	淡灰	B	II	α	来	1	ペグマタイトとの境界は, 3cm幅で変成. 50° ～55° 傾斜. 母岩に密着
23	330.65	23.48		細粒閃緑岩	淡緑灰	B	II		来		23.10m付近までペグマタイトの変成, 変質を 受けて珪化, 細粒化. 下部は一部縞状組織を示す.
	330.55	23.58				C	V	α	i	1	30° ～35° 傾斜, 弱いせん断面.
24	330.13	24.00			暗緑灰	B	II		来		微細なせん断割れ目が入るが, 岩盤に劣化な い.
	329.67	24.46					I				50° ～60° 傾斜の緑泥石脈多入る. 24.10～24.45m やや珪長質部を不規則に含 む.
	329.43	24.70		中粒花崗岩	淡灰	B	I	α	来	1	閃緑岩との境界面は密着, 不規則, 30° 傾斜.
	329.23	24.90					I				
25	328.63	25.50		縞状片麻岩	淡緑灰	B	III	α	来	1	24.70～25.45m 珪化変質を受けており, 硬質 だがヘアークラックが発達する. 25.30m 割れ目重合部の面に 貫鉄鉱付着顕 著.
	328.43	25.70			暗緑灰/緑灰		I				25.50m付近 片理面60° 傾斜.
26	327.58	26.55									25.70～26.50m 微褶曲構造発達.
											岩相境界45° 傾斜.
27	327.13	27.00		砂質片麻岩	暗灰～緑灰	B	II	α	来	1	26.55～26.75m 珪化変質を受け, 珪質化. 26.92m 2cm幅, 20° 傾斜で石英脈入る.

コア採取率（%）　最大コア長 cm　RQD［%］

（ルジオン 標準貫入）試験　（P～QN値～深度）図　[]：ルジオン値　()：換算ルジオン値　《》：限界圧力　N値

孔内水位(m)／測定月日	（N）値	原位置試験（　）	室内試験（　）	掘進状況 掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径(mm)／孔壁保護 コアチューブ／ビット	給圧（MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
					0.60		10	60～180	0.05	泥水／2.0	0
					0.60		10	60～180	0.05	泥水／2.0	0
					0.50		10	60～180	0.05	泥水／1.6～2.0	0
				9/5	1.00		0～5	100～180	0.05	泥水／2.0～4.0	0
					0.56		0～5	100～180	0.05	泥水／1.6～2.0	0
					0.48		0～5	100～180	0.05	泥水／1.6～2.0	0
				9/15	0.13		0.5～180	100～180	0.05	泥水／2.0～4.0	0
					0.65		0.5～200	100～180	0.05	泥水／2.0～4.0	0
					0.60		0.5～200	100～180	0.05	泥水／2.0～4.0	0
				9/16	0.82	100／ケーシング	0.5～200	100～180	0.05	泥水／2.0～4.0	0
				9/17	0.85		0.5～200	100～180	0.05	泥水／2.0～4.0	0
					0.60	W／I／D／B	0.2～180	100～180	0.05	泥水／1.6～2.0	0
					0.54		0.2～180	100～180	0.05	泥水／1.6～2.0	0
				9/21	0.26		0.5～180	50～180	0.05	泥水／2.0	0
					0.54		20	80～180	0.05	泥水／1.5	0
				9/23	0.24		20	80～180	0.05	泥水／1.5	0
				9/24	0.54		20	80～180	0.04	泥水／1.8	0
					0.30		20	80～180	0.04	泥水／1.8	0
					0.48		20	80～180	0.04	泥水／1.8	0
					0.66		20	80～180	0.04	泥水／1.8	0
				9/26	0.54		20	80～180	0.04	泥水／1.8	0
					0.95		20	80～180	0.05	泥水／2.0	0
				9/28	0.76		30	150～180	0.03	泥水／3.0	0
					0.85		0～0.5	100～200	0.05	泥水／2.0～4.0	0
					0.60		0～0.5	100～200	0.05	泥水／2.0～4.0	0
					0.54		0～0.2	100～180	0.05	泥水／1.6～2.0	0
					0.60		0～0.2	100～180	0.05	泥水／1.6～2.0	0
				10/1	0.75		30	150～180	0.03	泥水／3.0	0

J2-5 コア写真

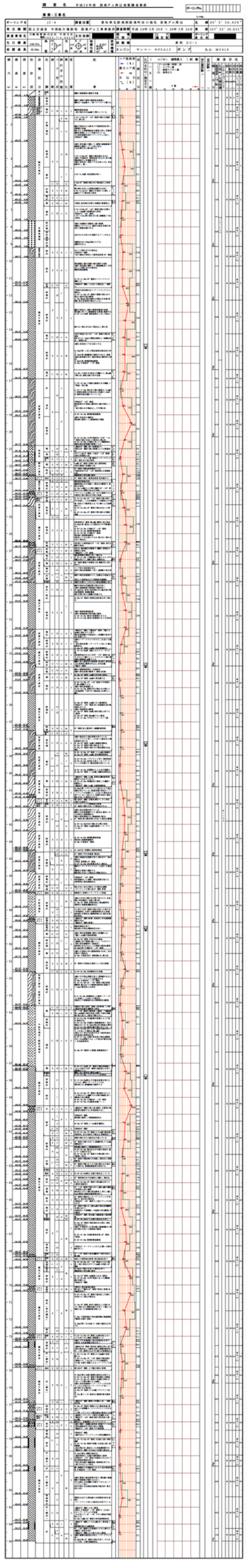


0	1
1	2
2	3
3	4
4	5
5	6
6	7
7	8
8	9
9	10
10	11
11	12
12	13
13	14
14	15

J2-5 コア写真


15
16
16
17
17
18
18
19
19
20
20
21
21
22
22
23
23
24
24
25
25
26
26
27
J2-5

ボーリング柱状図



J2-6 コア写真


件名 平成28年度 設楽ダム 周辺地質調査業務
孔番 J2-6
深度 0.00 m ～ 85.00 m
社名 川崎地質株式会社 中部支社
5 10 15 20 25 30 35 40 45 50 55 60 65 70 75 80 85 90 95
J-2-6
J2-6
0
1
1
2
2
3
3
4
4
5
5
6
6
7
7
8
8
9
9
10
10
11
11
12
12
13
13
14
14
15

J2-6 コア写真



J2-6 コア写真


34
35
35
36
36
37
37
38
38
39
39
40
40
41
41
42
42
43
43
44
44
45
45
46
46
47
47
48
48
49
49
50
50
51
51
52
52
53
J2-6

J2-6 コア写真


53
54
54
55
55
56
56
57
57
58
58
59
59
60
60
61
61
62
62
63
63
64
64
65
65
66
66
67
67
68
68
69
69
70
70
71
71
72
J2-6

J2-6 コア写真


72
73
73
74
74
75
75
76
76
77
77
78
78
79
79
80
80
81
81
82
82
83
83
84
84
85

ボーリング柱状図

調　査　名　平成28年度　設楽ダム周辺地質調査業務

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	J4-7	調査位置	愛知県北設楽郡設楽町田口地先　設楽ダム周辺	北　緯	35° 5' 32.846"
発注機関	国土交通省　中部地方建設局　設楽ダム工事事務所	調査期間	平成28年5月20日 ～ 29年3月24日	東　経	137° 33' 36.323"
調査業者名	川崎地質株式会社　中部支社　電話（052-775-6653）	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]
				コア鑑定者	[redacted]
				ボーリング責任者	[redacted]
孔口標高	364.90m	角度	上 180° / 下 0°、90° / 0°	方向	北 0°、東 90°、南 180°、西 270°
総掘進長	38.00m	地盤勾配	水平0° / 90°	使用機種	試錐機　YBM/YSO-1
					エンジン　ヤンマー　NFD8 / ヤンマー　NFD12-EK　ポンプ　鉱研　MG-5A

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率（%）RQD[%]	岩級区分	孔内水位(m)／測定月日	（ルジオン 標準貫入）試験 N値	原位置試験（ ）	室内試験（ ）	掘進月日	掘進状況 コアチューブリフト 孔内洗浄水圧 給圧 回転数 送水圧 送水量 排水量
1	364.50	0.40		盛土	暗褐						0.20mまで転石(礫主片麻岩)。全体は細粒分質土を混入。								
	363.90	1.00		表土	暗褐						全体は有機質が混り細粒土。植物根、多量混入。								
2				日吉花崗岩	黄褐						1.01～5.00m間の転石は、全て礫状片麻岩礫混り。最大径約3m。10～15m区間の礫径が多い。 1.20m,2.10m付近の礫に細礫脈状物伴う。 基質充填物は、細粒分混り砂礫であるが、空隙多い(1.95～2.0m,2.40～2.70m間)。 2.40m付近までは、植物根の混入多い。								
3											径3～5cm以上の礫は、各種片麻岩のもの2.5個、最大径約8m。 3.00～5.00m間は、礫質が特に少ない。 その他の区間の基質は、細粒分混り砂礫～細粒分質砂礫。								
4	360.30	4.60																	
5					赤褐						構成角礫は強度が弱～になるが、礫径3～5cm以上のものは全て堅硬からなる。 径約5cm～最大径約8cm。 基質は赤褐色を帯びる細粒分質砂礫、部分的には、基質量が少ない。								
6											6.10～6.50m間、閉口径の10～30mm大の角礫多量で、他区間と異なる。								
7	357.40	7.50																	
8				花崗岩類	暗青灰/灰褐	D	VI		h'		風化傾斜を残す非常に脆弱。 風化部は、径約5～10cmの硬質部残す(現状問題箇所)。 割れ目面は一部ペアークラック多く、多亀裂で細粒物質と粘質化。 モザイク状部は、全体の60%を占め、指圧で割れ部分もあるが一様な軟質化ではない。								
9										1	8.40～8.53m 径黄褐片麻岩(一部ペグマタイト質)優自形の取り込み。 9.75m付近 40° 傾斜の径長約1～2cmほぼ入り、母岩の閉塞径も1cm程で風化化して腐朽。		DH						
10	354.35	10.55			暗青灰	B	III		h	IV	ほとんど未風化であるが、割れ目に沿ってマサ化。 褐鉱は有色鉱物(おそらく角閃石)。								
11					暗灰	D	VI		h'	2	全般にマサ状風化し、岩石組織は消失しかかっており、指圧でやや指が指頭に軟質化、70%以上。 部分的に硬質な風化脈質状を含む。 11.55～11.70m 花崗岩質基質の取り込み。岩石は多亀裂で調査なし、粘質を黄黄灰色細粒分が充填。		DH						
12	352.90	12.00			暗灰						12.15～12.30m 不規則な径長質脈含む。 12.40～12.45m 不規則な数mm幅の径長質脈挟在。								
13	351.85	13.05			暗灰	D	VI		h'		13.00～13.30m 礫状、不規則な花崗岩質径長含む。 13.40～13.52m 礫状径緑岩、基質は風化砂、径粒境界30°傾斜化度。 一この区間全体が極脆弱性。	U-1							
14	351.36	13.55			暗灰	E					礫質部3mm幅の粘質化。 13.90m付近 閉塞径で礫入による褐色化。 13.90～14.20m 指粘に細砂質。 片理面50°～60° 傾斜。 モザイク状の割れ多く、細粒分質砂を伴う。 14.45m 3～4cm幅ペグマタイト薄入 40° 傾斜。								
15	350.70	14.20			暗灰	C	III		g	II			DH						
	349.72	15.18			灰褐	D	V		y	II	片理面70° 傾斜。 片理やその他のヘアークラックが多く、全体に褐色風化が進み、わずかに斜解面を残す		CL						
16	348.65	16.25		花崗岩岩体	灰褐	C	IV		y	II	1								
					赤褐	E			s'		上盤面10° ～15° 傾斜、緑粘分質砂礫(角礫)褐色風化が著しい、無構造性破砕。	U-2							
17	347.86	17.10			灰褐	D	V		y	III	2 全般に片理に起う褐色化、片理面60° 傾斜、概ね片理構造に起った角礫化が全般に見られ、細粒分基質は20%い、30%未満。 無構造性破砕の可能性あり。	C-2	DH						
18	346.90	18.05			暗灰	C	IV		y	II	3 全般に容石内外まで褐色化。 網状にヘアークラック入り、不規則に細礫～砂状化した部分をなす。基質は細粒分が充填。 60° 傾斜の細筆な割れ面が入り、上盤面は褐色化が顕著で、細礫状化、4cm幅。	C-2							
					暗灰	C	IV		y	II	2 片理面60° ～65° 傾斜。 片理面沿いや縦割れ方や、これと交差する低角割れ目沿いに褐色化している。 風化変質による弱面等の黄金色化が顕著。		CL						
19	345.95	19.05			暗灰	C	IV		y	II	2 19.00～19.52m 隣接する高角割れ目沿いの変質の影響を受け、ヘアークラック多く、褐色変質を受ける。		CL						
					暗緑灰	B	III				片理面50° ～60° 傾斜。 19.30～19.35m 全般に褐色変質を受け、緑灰色を呈する。								
20	344.95	19.95			灰/緑灰	B	II		i	1	1 断層角構造を伴うが、片理120° 以上の傾斜。 19.50～19.75m 比較的低角割れ目が発中し、割れ目沿いに褐色化。 黒色礫岸辺に緑緑緑化を普言に随伴。		CL						
					緑灰	C	IV		y	II	19.95～21.30m 85° ～90° 傾斜の数条の高角割れ目入り、これ沿いに変質を受けている。褐色緑粒分が支配、母岩も全般に褐色変質を受ける。 下盤面90° 傾斜。								
21	343.60	21.30											CL						
					暗緑灰	B			i		片理面50° ～85° 傾斜。 片理面およびこれに交差するヘアークラックやや多く、これ沿いに褐色化を受ける。 全般に軟質の褐色化を受ける。								
22	342.95	21.95			暗	D	V			III	上盤面50° 傾斜、暗灰色～黒色粘土 1～2cm幅。 母岩は高角で、不規則傾斜80° ～90° 、4～5cm幅黄褐色砂礫混り緑粒土、熱水変質脈、中位も褐色変質受ける。	h-2	DH						
23	342.10	22.80			暗緑灰	B	IV		i	2	全般に軟質の褐色変質を受け、淡緑灰色を呈する。 23.90～23.35m 60° 傾斜、1cm幅径長質脈入る。 片理面50° 傾斜。 緑緑緑岩や黄褐岩を多く 40 混入。 ヘアークラックがやや多く、これ沿いに脱色化、褐色化進む。		CL						
24	340.70	24.20																	
25	339.64	25.26			淡緑灰/黄緑灰		I		ji	未	長柱状コアで、散少ないヘアークラック褐色化。 緑緑緑岩などの緑に起物混生す。 全般に軟質の褐色変質を受けている可能性有り。		CH						
					暗灰	C	IV		y	II	高角度の網状ヘアークラックが発達。 これ沿いに褐色変質。 下盤面60° 傾斜、1～2cm幅の角礫状部と粘土化部を伴う。		CL						
26	339.10	25.80			淡緑灰	B	III		i		黒色礫に方位変質の緑色起物随伴。 全般に軟質の褐色化を受ける。		CL						
	338.04	26.86			灰褐	E	VI		s	III	3 上盤面55° 傾斜、5～6cm幅、砂質粘土部。 下盤面45° 傾斜、10cm幅、細粒分質不良礫部。	Sh-3	DL						
	338.12	26.78				B	IV		y	II	2 70° ～80° 傾斜で、数cm幅の径長質を伴う変質部。		CL						
27	337.65	27.25			暗灰	E	VII		s'	III	3 全般に礫混り砂質粘土状で、基質は灰～淡黄灰色。 降雨する岩盤には、褐色化したヘアークラックを伴う。	S-2	DL						
	337.05	27.85			淡緑灰/黒緑灰	B	II		a	未	1	片理面は15度90° 傾斜。		CH						
28	336.42	28.48			灰褐	E	VII		s'	III	3 上盤面は多亀裂で、褐色変質顕著。 内部は全般に砂～礫質混じり粘土状、指圧で崩れ。 下盤面60° 傾斜？(不明瞭)。	S-h-3	DL						
29	335.36	29.60			淡緑灰/黒緑灰	C	III		a	未	2 全般に緩状のヘアークラックが発達し、方解石脈を伴う。 母岩部の淡緑灰色変質(緑泥石変質)が顕著。黒色礫に方位変質の緑色起物随伴。 全般に軟質の岩人素を受けている可能性有り。		CL						
30	334.72	30.24			淡青緑灰	E	VII		s'		3 上盤面50° 傾斜、80° 傾斜のスリッケンライン、1cm幅の灰色粘土。 内部は細粒分質砂礫状破砕帯。 下盤面50° 傾斜、数cm幅の暗灰～黒色粘土。	S-h-3	DL						
	334.48	30.42			淡緑灰	B	III		a				CM						
	334.15	30.75			暗灰		IV		y	II	30.44～32.05m間 全般に開口亀裂が多い。 比較的低角割れ目が主体で、これ沿いに変位あり。		CL						
31	333.95	31.00					V		y	III	上部より岩片が細かくなり、より割れ目開口。		DH						
32	332.90	32.05			暗灰	C	IV		y	II	2 片理面50° ～65° 傾斜。 比較的低角割れ目が主体で、全般に開口性が顕著で、暗褐色化している。 岩片間のみ合わせ干渉。		CL						
	332.70	32.20			灰/灰褐	E	VII		s'		1 上盤面50° 傾斜、数mm灰色粘土状片、砂礫に変色部。	Sh-1	DL						
	332.30	32.60			暗灰		IV		y		1 50° 傾斜、1～2cm幅の黒色異入岩片非調和に異入。		CL						
33					暗灰/淡灰(～縞状～		II		a		1 32.60m 1～2cm幅、35° 傾斜、暗灰～灰色粘土化せん断面、概粘、一連面に鉄状膜を伴う。		CH						
34	329.90	35.00									全般に、片理、割れ主ないの部分的に軟質な脆色化はあるが、黒色緻と径長緻が縞互層すら緻状生準部の脆質化物、 緑緑緑岩の脆弱部数。 軟質の脆色化部における緑鉄鉱の緻伴あり、 長柱状コア主体で、割れ目は新鮮。								
35					緑灰/淡緑灰	B	III		g	未	2 全般に高角度(85° ～90°)傾斜の脆色化、緑灰化を受けている。方解石脈を伴う。 35.75～35.85m 65° 傾斜の小せん断面、上下盤では理構造変化、下盤端部、3cm程色粘土挟在。 全体に緑状緑岩、ネレシェカから見かけ逆断層変化。		CM						
36	328.90	36.00																	
37					黒/淡灰(～縞状～		I		a		1 36.10m付近の65° 傾斜の割れ目にやや暗色化あり。 全般に長柱状、水風化、未変質(やや褐色化)の新鮮岩。 緑緑緑岩が黒色縞を随伴。 軟質の脆色部に異緑緑緑染あり。		CH						
											37.35～37.45m 10° 傾斜の径長脈入る(片麻状構造を切る)。								
38	326.90	38.00																	

J4-7 コア写真



0	1
1	2
2	3
3	4
4	5
5	6
6	7
7	8
8	9
9	10
10	11
11	12
12	13
13	14
14	15

J4-7 コア写真


15
16
16
17
17
18
18
19
19
20
20
21
21
22
22
23
23
24
24
25
25
26
26
27
27
28
28
29
29
30
30
31
31
32
32
33
33
34
J4-7

J4-7 コア写真



ボーリング柱状図

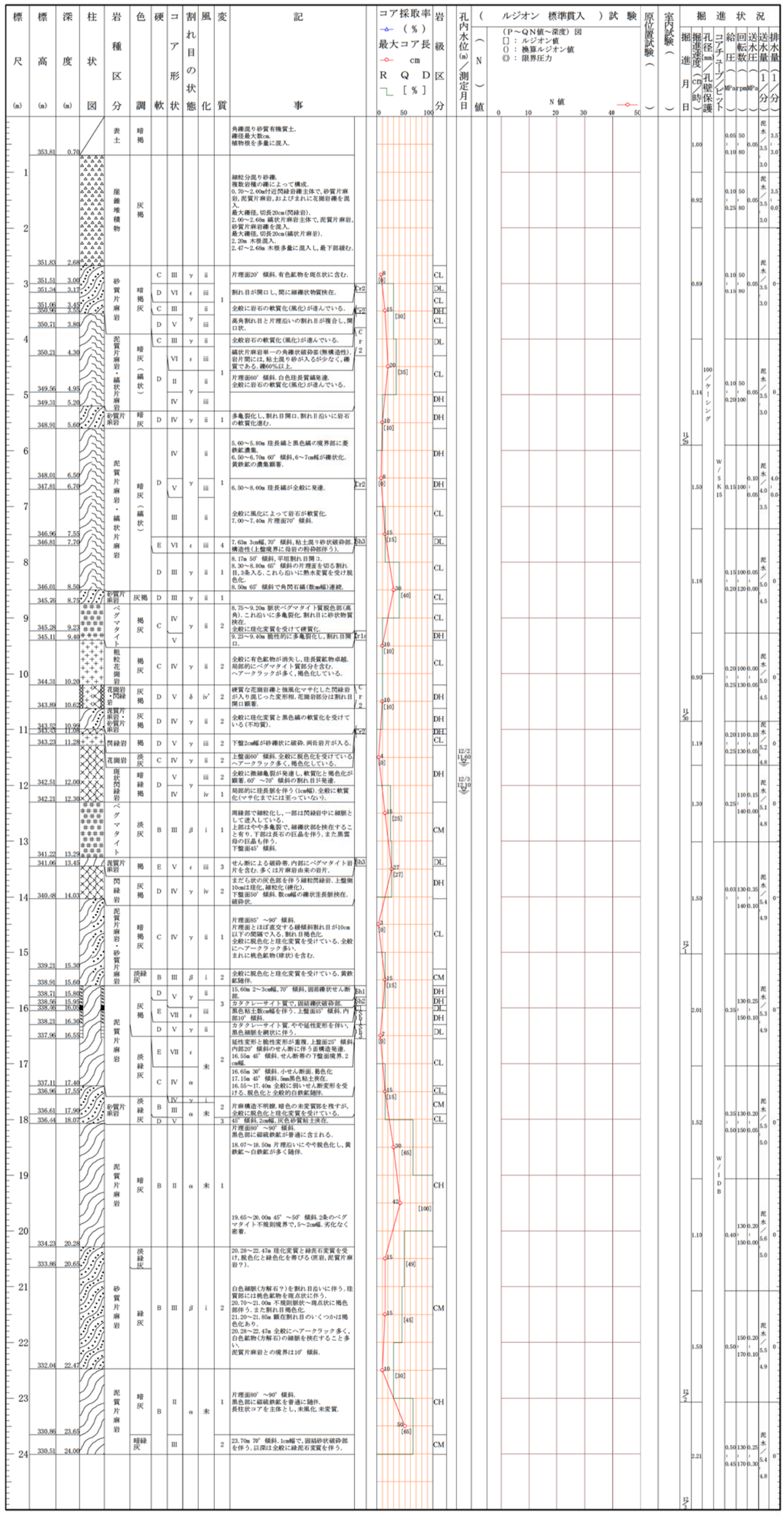
調　査　名　平成28年度　設楽ダム周辺地質調査業務

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	J4-8	調査位置	愛知県北設楽郡設楽町田口地先　設楽ダム周辺	北緯	35° 5' 35.053"
発注機関	国土交通省　中部地方建設局　設楽ダム工事事務所	調査期間	平成 28年 5月 20日 ～ 29年 3月 24日	東経	137° 33' 36.902"
調査業者名	川崎地質株式会社　中部支社　電話（052-775-6653）	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]
				コア鑑定者	[redacted]
				ボーリング責任者	[redacted]
孔口標高	354.51m	角度	180°（上）90°（下）0°　0°	方向	北 0°　270°（西）90°（東）　180°（南）
総掘進長	24.00m	地盤勾配	鉛直 90°　水平 90°　36°	使用機種	
試錐機	YBM/YSO-1				
エンジン	ヤンマー　NFD8 ヤンマー　NFD12-EK	ポンプ	鉱研　MG-5A		



J4-8 コア写真



0	1
1	2
2	3
3	4
4	5
5	6
6	7
7	8
8	9
9	10
10	11
11	12
12	13
13	14
14	15

J4-8 コア写真

